

# ～SAGA ハイスクールDI人材育成事業 「DI SCHOOL SEIRENKATA」～

## 現状

### ○ 「知」の県外流出

- ・ 県外大学への流失→高校卒業後もつながりを持ち続ける仕組みづくりを定着できていない
- ・ 高卒希望就職者の県外流出 ・高校生への実践的なデジタル技術の学びの場が提供できていない

## 要因

- ・ 県内企業のDI人材ニーズはあるものの、それに応えるだけの人材が育成できていない  
(地元企業の声)



- 金融・・・採用でデジタル人材を一定数雇っている
- 建設・・・現場からバックオフィスまでデジタル化を進めていて、人材確保が大事
- 情報・・・新しいことを学んだ学生の採用も必要、引き続き採用を強化していく
- 製造・・・デジタル人材さえ雇えば、いくらでも事業は伸ばせる
- サービス・・・有能なデジタル人材ならいくらでも雇いたい
- 福祉・・・ビジネスに大きな差がつく時代であり、デジタル人材は必要不可欠

- ・ 県外大学進学者が佐賀県で就職するための土壌が不十分  
(意識)地元で働くことに対する魅力を十分に感じていない(働きがい・賃金・ワークライフバランス等)  
(手段)県内外問わず大学生に対する県内企業の個別のアプローチができていない

県内高校生



校種の枠を超え学ぶ



## 解決策

佐賀で貢献したい、発展させたいという意識を醸成する場の提供

DI人材として活躍できる知識等を習得する場

大学生に対する直接的なアプローチを実現する仕組み



## 「SEIRENKATA」

- 地元学を含めたケースメソッド教育手法の確立
- サーキットデザイン教育を軸としたデジタル技術習得
- アントレプレナーシップ教育
- 産業との連結

尖った人材を輩出

佐賀から産業を変革するDI人材を創出  
(コ・クリエーションの世界の実現)

産業労働部と教育委員会の既存事業を「SEIRENKATA」  
に溶け込ませ、連携強化により相乗効果を上げる

産業労働部



教育委員会

## 達成できること

佐賀の若者が 将来佐賀で活躍

- ・ 大学生への県内就職のためのアプローチ
- ・ 高卒希望者の県内就職数の増加(製造職以外の技術職への採用)

# ～SAGA ハイスクールDI人材育成事業 「DI SCHOOL SEIRENKATA」～

## コンセプト

産学官金で連携して展開する佐賀県独自のSAGA型 DI人材育成事業

- ✓ 高校生が“実践的なデジタル技術”と“佐賀県に貢献したいというマインド”を身につけるための学びの場を創設
- ✓ 県内企業で活躍できるDI人材や将来の起業家を佐賀県全体で育成

※幕末日本の科学技術の発展に大きな功績を残した佐賀藩の理化学研究所「精煉方」になぞらえ、事業の名称は「SEIRENKATA」

## SAGA DI Lab(学びの場)

- ・高校生が県内の各エリア拠点7か所で、独自開発カリキュラムにより学ぶ
- ・企業、高専、大学から派遣される現役のハイレベルな講師から学ぶ
- ・各エリアで学ぶ高校生が交流、ディスカッションできる月1回程度の特別講義

## DI人材育成コンソーシアム(Labの運営事務局)

- ・SAGA DI Labで学ぶカリキュラムの開発、展開
- ・Labへの講師派遣、伴走コーチ、高性能PC提供

## 産学官金が連携して参画

- ・地元IT企業と有明高専が全面的に参画
- ・佐賀大学、佐賀銀行、多数の地元企業、NPO等も参画

## 事業展開

令和6年度

令和7年度

令和8年度

ベーシックな学び

高度な学びへ

- ・高校生と県内企業との繋がりを作り、参画する企業を拡大
- ・デジタル田園都市国家構想交付金を活用

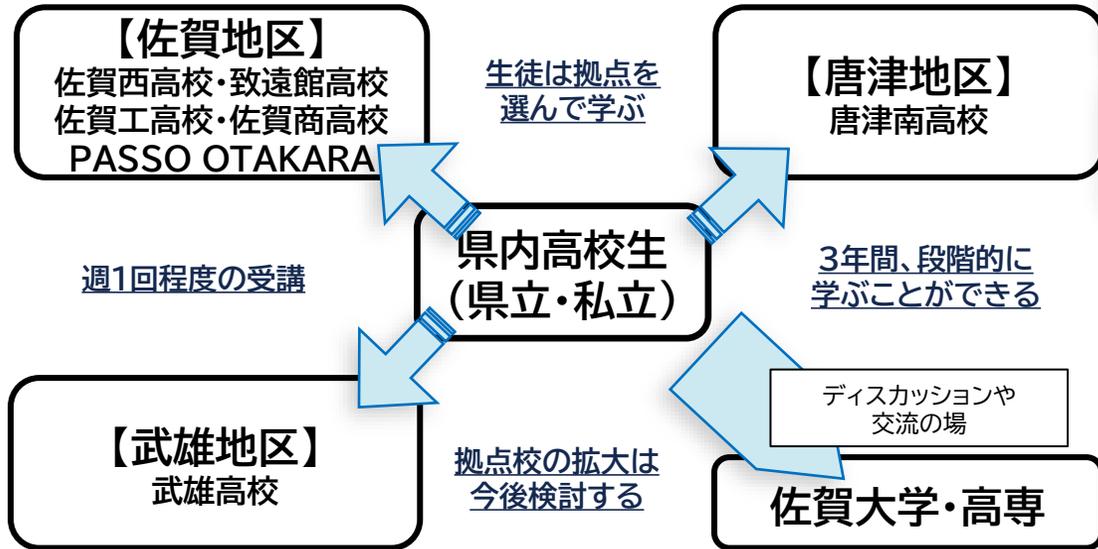
令和9年度～

県内企業が主体となった自走を目指す

# SAGA DI Lab・DI人材循環モデル

## 学びの場 SAGA DI Lab

○ 各拠点校(1名の伴走コーチ)で、全受講者が「ベーシックプログラム」を履修する(7か月・放課後40コマ・休日 特別講義5回)



○ 「地元学」を学ぶ  
佐賀の産業と歴史の関わりから、今後の展望(先端技術を活用した価値創造)を考える

○ 最先端デジタル技術を学ぶ  
仕組みから学び、演習(アウトプット)を繰り返し、技術力、創造力を身につける  
●サーキットデザイン(半導体回路設計)●プログラミング●データサイエンス・AI活用

「共創活動」 高校生が自らデジタル技術で  
身近な課題解決に挑む

佐賀県DI選手権大会(新設)で競う  
→企業等へのPRの場となる

「DI SCHOOL SEIRENKATA修了証」(活動実績証明書)を発行

デジタル等成長分野の学部・学科への進学者の増・県内就職者数の増  
高校段階において産業のDX化を支える人材拡大

## SAGA型若手DI人材循環モデル(イメージ)

